

株主の皆様へ

株式会社クレハ

KUREHA CORPORATION

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
株主確定基準日	・定時株主総会／期末配当 3月31日 ・中間配当 9月30日 ・その他必要がある時は、取締役会の決議によってあらかじめ公告します。
公告方法	当社のWebサイトに掲載します。 (http://www.kureha.co.jp/ir/koukoku.htm) ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問い合わせ先	

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

クレハ レポート

第96期期末報告書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第96期(2008年4月1日から2009年3月31日まで)の「クレハ レポート(第96期期末報告書)」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当期のわが国経済は、米国金融危機が金融機関破綻から信用収縮までに至り、第3四半期に入って世界的に景気後退の様相を示すなか、輸出減少および円高により実体経済が急速に悪化し、製造業を中心として雇用面にも影響が表れてまいりました。

化学工業におきましては、第2四半期までの原燃料価格高騰に対する製品価格への反映が未完にもかかわらず、第3四半期に入って原燃料価格下落により製品価格引き下げ圧力にさらされるとともに、内需・輸出が落ち込むなか、減産を余儀なくされるなど、厳しい状況が続きました。

当社およびグループ各社はこのような状況のもと、当期を初年度とし、2012年度を最終年度とする新中期経営計画「中期経営計画GROW GLOBALLY(グローバル展開による成長)」を策定し、グローバル展開による既存事業の推進、新規事業の着実な育成に向けて取り組んでおりますが、当期の連結売上高は前期比4.0%減の1,437億41百万円、営業利益は前期比25.7%減の94億56百万円、経常利益は前期比31.7%減の86億50百万円となりました。

当期純利益につきましては、特別損失として「棚卸資産の評価に関する会計基準」を当期首在庫の評価から適用したことに伴う簿価切下げ額、株式相場下落に伴う投資有価証券評価損等を計上した結果、前期比44.7%減の33億73百万円となりました。

以上の状況のもと、当社は、利益の配分は業績変動の影響はあるものの、安定的・継続的な配当を実施していくことを方針としており、当期配当金につきましては、中間配当金5円、期末配当金5円の当初の予定どおり、年間配当金1株につき10円とさせていただきます。

当社はありたい姿としての“エクセレント・カンパニー”を目指し、チャレンジし続け、経済・社会環境変化への適応、地球環境との調和を図り、コンプライアンス(法令および社会的規範の遵守)を実践し、地球市民の一員として企業の社会的責任を果たしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月



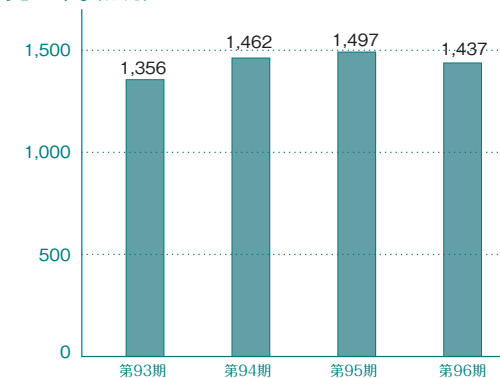
代表取締役社長 岩崎隆夫

連結財務 ハイライト

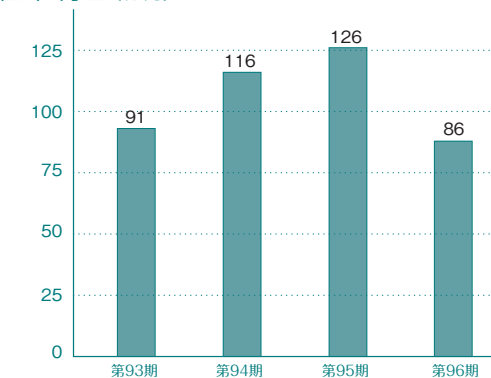
	第93期 2005年度	第94期 2006年度	第95期 2007年度	第96期(当期) 2008年度
売上高 (百万円)	135,627	146,255	149,775	143,741
営業利益 (百万円)	9,708	11,841	12,722	9,456
経常利益 (百万円)	9,185	11,682	12,661	8,650
当期純利益 (百万円)	5,171	5,832	6,096	3,373
総資産 (百万円)	185,203	196,106	187,349	182,224
株主資本・純資産※ (百万円)	98,357	107,349	104,582	97,074
自己資本比率 (%)	53.1	54.2	55.2	52.4
1株当たり当期純利益 (円)	27.61	31.58	33.39	18.75
1株当たり純資産額 (円)	535.26	578.09	572.24	533.45

※第93期は従来の「株主資本」での記載になっております。

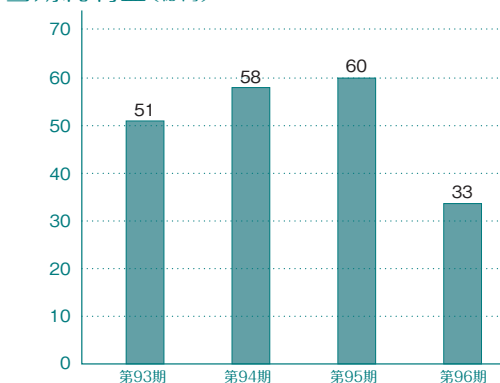
売上高(億円)



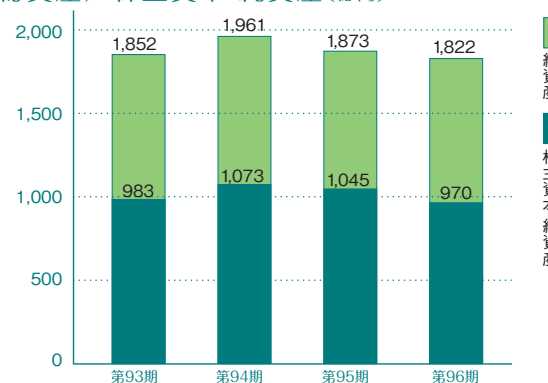
経常利益(億円)



当期純利益(億円)



総資産/株主資本・純資産(億円)



※第93期は従来の「株主資本」での記載になっております。

第96回 定時株主総会 決議ご通知

2009年6月25日

東京都中央区日本橋浜町3-3-2

株式会社クレハ

代表取締役社長 岩崎 隆夫

第96回 定時株主総会決議ご通知

拝啓 株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、6月25日開催の第96回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご通知申し上げます。

敬 具

記

報告事項

1. 第96期(2008年4月1日から2009年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第96期(2008年4月1日から2009年3月31日まで)計算書類報告の件

決議事項

- | | |
|-------|--|
| 第1号議案 | 定款一部変更の件
本件は、原案のとおり承認可決されました。 |
| 第2号議案 | 取締役10名選任の件
本件は、原案のとおり承認可決され、田中 宏、岩崎隆夫、萩野弘二、鈴木直哉、宗像敬吉、斉藤邦彦、高橋 武の7名が再選、重任し、小林 豊、佐川 正、須能則和の3名が新たに選任、就任いたしました。 |
| 第3号議案 | 取締役に対する賞与支給の件
本件は、原案のとおり承認可決され、当期の業績等を勘案し、業績連動賞与として、当期末の取締役10名に対し総額33,000千円(うち社外取締役2名に対し総額1,400千円)の役員賞与を支給いたします。
なお、各取締役に対する配分等の決定は、取締役会にて決議いたします。 |

剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、利益を向上させ、資産効率を高めることにより企業価値を向上させることが株主の皆様の利益につながるものと考えています。利益の配分については、業績変動の影響はあるものの、安定的・継続的な配当を実施することが肝要であり、その上で企業体質の強化・将来の事業展開に備えた内部留保に充当することを基本方針としています。

なお、当期末配当金(1株につき5円)は、6月2日に既にお支払いをさせていただいております。

主な連結対象会社 (2009年3月31日現在)

連結子会社数：34社
持分法適用会社：1社

■機能製品事業(全9社)

加古川プラスチック(株)
レジナス化成(株)
クレハ エクステック(株)
日本エクストロン(株)
クレハ GmbH(ドイツ)
クレハ・アメリカINC.[アメリカ]
クレハ・アドバンスド・マテリアルズINC.[アメリカ]
クレハ・ピージーエーLLC[アメリカ]
上海呉羽化学有限公司[中国]

■樹脂製品事業(全9社)

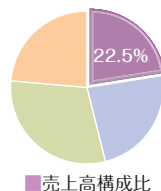
クレハプラスチック(株)
クレハ合繊(株)
クレハロン・インダストリーB.V.[オランダ]
クレハ・ヨーロッパB.V.[オランダ]
上海呉羽貿易有限公司[中国]
その他3社
(持分法適用会社)
南通匯羽豊新材料有限公司[中国]

■その他事業(全17社)

(株)クレハ環境
(株)クレハ分析センター
(株)クレハエンジニアリング
クレハ錦建設(株)
クレハ運輸(株)
錦商事(株)
クレハサービス(株)
クレハスタッフサービス(株)
その他9社

セグメント別営業の概況

機能製品事業



機能樹脂分野では、PPS樹脂は自動車用途および電気・電子素材用途の需要が減少し、特に米国における合弁事業の不振の影響が大きく、売上げ、営業利益ともに前期に比べ減少いたしました。

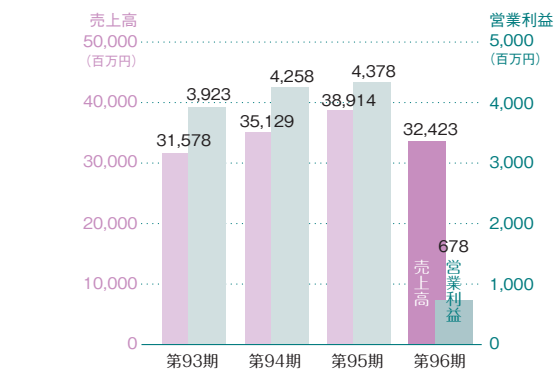
ふっ化ビニリデン樹脂は、リチウムイオン二次電池用バインダー用途および工業用素材用途の需要減少に加え、円高により、売上げ、営業利益ともに前期に比べ減少いたしました。

炭素製品分野では、炭素繊維は太陽電池パネル製造用等の高温熱処理炉用断熱材用途の需要は増加いたしました。円高および設備投資に伴う償却費が増加し、球状活性炭は輸出が減少して、この分野の売上げは前期に比べ増加いたしました。営業利益は減少いたしました。

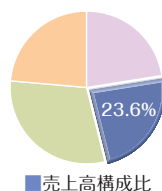
なお、前期まで樹脂製品事業に含めておりましたクレハ エクステック株式会社は、事業再編により機能製品事業の割合が増加し、今後この傾向が予想されるため、当期より機能製品事業として区分することにいたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前期比16.7%減の324億23百万円となり、営業利益は前期比84.5%減の6億78百万円となりました。

■売上高／営業利益の推移



化学製品事業

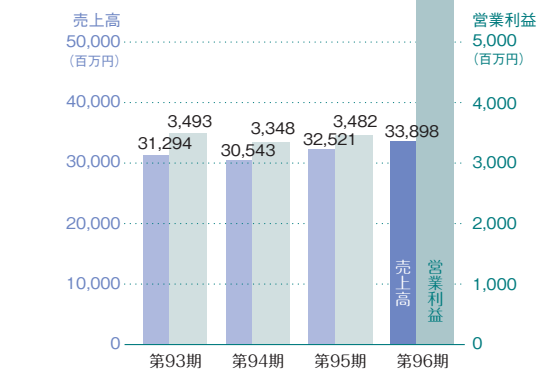


医薬・農業分野では、慢性腎不全用剤「クレメジン」は前期に比べ売上げが増加、抗悪性腫瘍剤「クレスチン」は売上げが減少、農業・園芸用殺菌剤「メトコナゾール」は輸出が増加して、この分野の営業利益は前期に比べ増加いたしました。

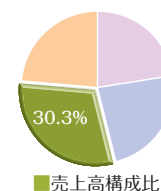
工業薬品分野では、か性ソーダ・塩酸等の無機薬品類、クロルベンゼン類ともに、販売数量は減少したものの、原燃料価格高騰の製品価格への反映が進んだことにより、この分野の売上げは前期に比べ減少いたしました。営業利益は増加いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前期比4.2%増の338億98百万円となり、営業利益は前期比64.6%増の57億31百万円となりました。

■売上高／営業利益の推移



樹脂製品事業



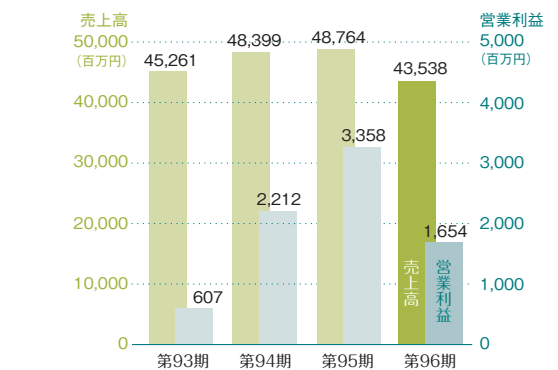
コンシューマー・グッズ分野では、家庭用ラップ「NEWクレラップ」は改良された商品価値を反映する市場価格形成に注力した成果を上げることができましたが、塩化ビニリデン・コンパウンドの生産量減少により固定費負担が増加し、また、ふっ化ビニリデン釣糸「シーガー」は個人消費の冷え込みにより、この分野の売上げは前期に比べ増加いたしました。営業利益は減少いたしました。

業務用食品包装材分野では、国内については、塩化ビニリデン・フィルム、熱収縮多層フィルムの売上げは増加いたしました。ラミネート用ハイバリア・フィルム「ベセーラ」、多層ボトルの売上げは減少し、また、欧州子会社では前期並みの販売実績となったものの、為替換算により、この分野の営業利益は前期に比べ減少いたしました。

包装機械は国内において新型のクリップレス自動充填結紮機の大口出荷が一巡し、中国向けの塩化ビニリデン・コンパウンドは販売価格引上げを優先して数量減となったため、両製品ともに営業利益は前期に比べ減少いたしました。

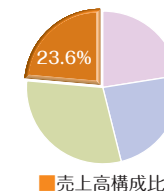
この結果、本セグメントの売上高は前期比10.7%減の435億38百万円となり、営業利益は前期比50.7%減の16億54百万円となりました。

■売上高／営業利益の推移



その他事業

(左記に属さないグループ会社の事業)



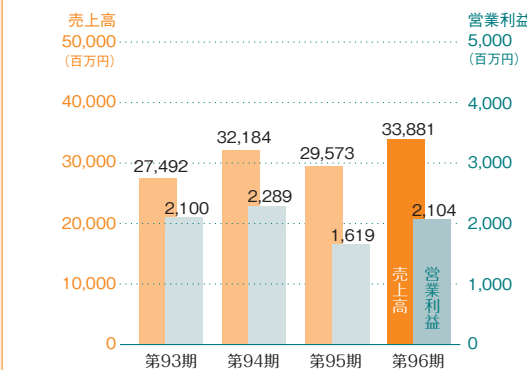
環境関連分野では、売上げは前期に比べ微減に留まったものの、焼却炉修繕・廃棄物分析費用等処理費の増加により営業利益は大幅に減少いたしました。

建設関連分野では、プラント建設での大型工事の計上があったこと等により、売上げ、営業利益ともに前期に比べ大幅に増加いたしました。

運輸・倉庫関連分野では、倉庫部門での若干の数量増はあったものの、運送部門での輸送量減少、競争激化による販売の落ち込みもあり、売上げ、営業利益ともに前期に比べ減少いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前期比14.6%増の338億81百万円となり、営業利益は前期比29.9%増の21億4百万円となりました。

■売上高／営業利益の推移



財務諸表(連結) 2009年3月31日現在

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表 金額(百万円)

資産の部			負債の部		
科目	当期(第96期) 2009年3月31日現在	前期(第95期) 2008年3月31日現在	科目	当期(第96期) 2009年3月31日現在	前期(第95期) 2008年3月31日現在
流動資産			流動負債		
現金および預金	7,264	6,120	支払手形および買掛金	18,228	20,601
受取手形および売掛金	30,137	35,120	短期借入金	17,353	18,542
有価証券	5	5	未払法人税等	1,216	2,159
商品および製品	17,773	14,591	賞与引当金	2,224	2,025
仕掛品	2,005	2,875	役員賞与引当金	64	102
原材料および貯蔵品	5,962	4,974	その他	13,349	14,843
その他	5,597	5,987	流動負債合計	52,436	58,274
貸倒引当金	▲154	▲187	固定負債		
流動資産合計	68,592	69,487	社債	15,000	5,000
固定資産			長期借入金	11,680	8,498
有形固定資産			退職給付引当金	2,047	2,417
建物および構築物(純額)	26,930	26,269	役員退職慰労引当金	432	451
機械装置および運搬具(純額)	25,113	25,309	負ののれん	—	309
その他(純額)	25,320	20,184	その他	3,552	7,815
有形固定資産合計	77,363	71,763	固定負債合計	32,713	24,492
無形固定資産	1,108	935	負債合計	85,149	82,766
投資その他の資産			純資産の部		
投資有価証券	18,678	29,489	株主資本		
その他	16,975	16,248	資本金	12,460	12,460
貸倒引当金	▲494	▲575	資本剰余金	10,013	10,013
投資その他の資産合計	35,159	45,162	利益剰余金	72,779	72,218
固定資産合計	113,631	117,861	自己株式	▲1,265	▲1,553
資産合計	182,224	187,349	株主資本合計	93,988	93,138
			評価・換算差額等		
			その他有価証券評価差額金	3,756	10,224
			繰越ヘッジ損益	▲5	▲6
			為替換算調整勘定	▲2,165	29
			評価・換算差額等合計	1,586	10,248
			新株予約権	47	19
			少数株主持分	1,452	1,175
			純資産合計	97,074	104,582
			負債・純資産合計	182,224	187,349

連結損益計算書 金額(百万円)

科目	当期(第96期) 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	前期(第95期) 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	143,741	149,775
売上原価	105,193	106,195
売上総利益	38,547	43,580
販売費および一般管理費	29,091	30,858
営業利益	9,456	12,722
営業外収益	1,351	1,719
営業外費用	2,156	1,780
経常利益	8,650	12,661
特別利益	358	2,087
特別損失	2,999	3,614
税金等調整前当期純利益	6,009	11,135
法人税等	2,719	5,120
少数株主損失(加算)	83	81
当期純利益	3,373	6,096

連結キャッシュ・フロー計算書 金額(百万円)

科目	当期(第96期) 2008年4月1日から 2009年3月31日まで	前期(第95期) 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,420	14,995
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲20,518	▲8,584
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,704	▲4,757
現金および現金同等物に係る換算差額	▲462	9
連結範囲の変更による 現金および現金同等物の増加額	—	178
現金および現金同等物の増減額	1,144	1,841
現金および現金同等物の期首残高	6,120	4,278
現金および現金同等物の期末残高	7,264	6,120

連結対象会社は4頁に記載しております。

連結株主資本等変動計算書 (2008年4月1日から2009年3月31日まで) 金額(百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	繰越ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2008年3月31日残高	12,460	10,013	72,218	▲1,553	93,138	10,224	▲6	29	10,248	19	1,175	104,582
在外子会社の 会計処理の変更に伴う増減			6		6							6
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			▲1,804		▲1,804							▲1,804
当期純利益			3,373		3,373							3,373
自己株式の取得				▲775	▲775							▲775
自己株式の処分			▲8	59	51							51
自己株式の消却			▲1,004	1,004	—							—
在外子会社の 従業員奨励福利基金の積立			▲1		▲1							▲1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						▲6,468	1	▲2,194	▲8,661	27	276	▲8,357
連結会計年度中の変動額合計	—	—	555	288	843	▲6,468	1	▲2,194	▲8,661	27	276	▲7,514
2009年3月31日残高	12,460	10,013	72,779	▲1,265	93,988	3,756	▲5	▲2,165	1,586	47	1,452	97,074

単独の財務諸表は、当社Webサイト、「TOPページ」→「投資家情報」→「IR資料室」→「有価証券報告書」をご参照ください。(http://www.kureha.co.jp/ir/library/yyuuka.html)

「中期経営計画 GROW GLOBALLY」における経営ビジョン

当社は、2008年度を初年度とし2012年度までの5ヶ年の「中期経営計画 GROW GLOBALLY(グローバル展開による成長)」(略称:「中計GG」)を策定、2012年度売上げ2,100億円、営業利益250億円を定量目標としてスタートしました。

「中計GG」では、2005年に制定した企業理念体系に基づき、ありたい姿としての“エクセレント・カンパニー”を目指し、グループ一丸となってグローバルな成長の実現と新規事業の着実な成果実現に向けてチャレンジし続けます。経済・社会環境への適応、地球環境との調和をはかりながら、地球市民の一員として社会に貢献してまいります。

当社は、「中計GG」において、CSR(企業の社会的責任)の考え方に基づいた事業運営を行います。

- ・ 地球環境や人々の暮らしに有益なソリューションの提供
- ・ 持続的成長をもたらす改革と事業拡大による経済的価値の向上
- ・ 成長の原動力となる人財の育成・確保およびコンプライアンスと安全を重視した企業体質の確立

これらの経済的価値・環境的価値・社会的価値の総和である企業価値を向上させ、経済の変動リスク、環境・資源リスク、市場変化や競争激化などの事業リスクに対し、機動的な決断と実行により乗り越え、“エクセレント・カンパニー”を目指して運営してまいります。

地球環境や人々の暮らしに有益なソリューションを提供

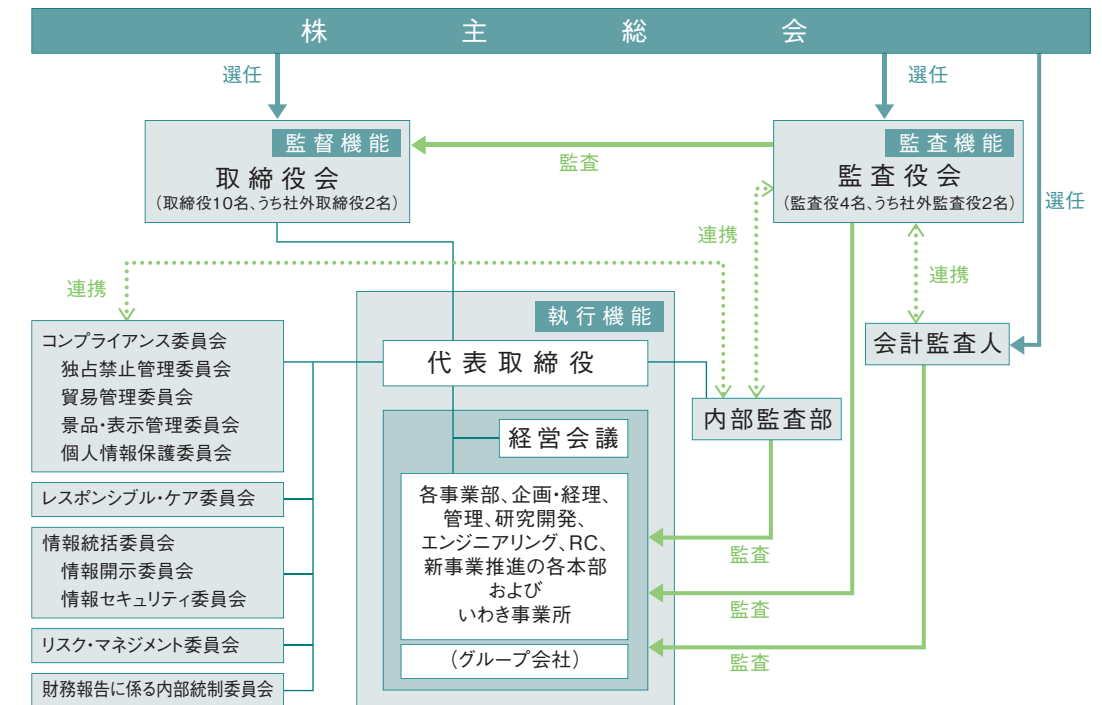


コーポレートガバナンスの状況

当社グループは、グループの企業価値を最大限に高めることを基本方針とし、コンプライアンス(法令および社会的規範の遵守)の実践を含む内部統制機能の充実、経営の透明性の確保と公正な情報開示、レスポンシブル・ケア活動(環境安全、保安防災等に関する自主的管理活動)への取り組みを通じて、これを実現させていきたいと考えております。

具体的には、コンプライアンス体制として「クレハグループ倫理憲章」および「コンプライアンス規程」の制定と役員・従業員への浸透、取締役会および経営会議における経営上の意思決定および業務執行状況の確認、社長直轄の内部監査部による適正かつ効率的な業務執行状況の評価・検証および指摘・提言、監査役および会計監査人による実効性のある監査、環境保全・保安防災・労働安全・製品の安全と品質保証などの質の向上を目指したレスポンシブル・ケア活動を行っております。

株式会社クレハ 内部統制に関する模式図



「クレメジン」インドにおける独占的開発・販売権許諾契約を締結



「エルジー・ライフサイエンス・インド」社との契約締結の模様

2009年2月5日、世界展開を進めている慢性腎不全用剤「クレメジン」のインド国内における独占的開発・販売権の許諾契約を「エルジー・ライフサイエンス・インド(インド)」社と締結しました。今後、臨床試験に入り、2012年にも販売できる見通しです。

「クレメジン」は、高純度の多孔性球状活性炭からなる経口吸着炭です。慢性腎臓病(CKD)を悪化させる尿毒症物質を腸内で吸着し、便とともに体外に排泄します。それにより尿毒症症状の改善や透析導入の遅延をもたらす効果があります。



慢性腎不全用剤「クレメジン」

上海呉羽化学有限公司 新工場竣工



竣工式で挨拶する岩崎社長

2009年3月25日、上海呉羽化学有限公司において、炭素繊維加工品の新工場が竣工しました。当社の炭素繊維は石油ピッチを原料とし、半導体用シリコンやセラミック製造工程で使用される断熱材用途に用いられていますが、近年では太陽電池用シリコンを製造する熱処理炉に使用される断熱材として需要が伸びています。

当社は炭素繊維事業を成長ドライバーのひとつと位置づけ、日本、中国、米国の各生産拠点の拡充を含め、生産・販売体制のグローバルなネットワーク構築に注力しております。



炭素繊維「クレカFR」(高温炉用断熱材)

おかげさまで50年目 「NEWクレラップ」リニューアル

1960年に日本初の家庭用ラップとして発売された「クレラップ」は、おかげさまで今年発売50年目を迎えます。1989年にはV字刃の採用などパッケージを大幅にリニューアルし、「NEWクレラップ」として生まれ変わりました。お客様に安心してお使いいただくために、2008年には植物由来のプラスチック刃を採用し、発売50年目の今年もカートンに新たな改良を加え、6年連続のリニューアルを実施しました。

また、永年のご愛顧の感謝として「NEWクレラップ」の売上げの一部を「乳がんをなくす ほほえみ基金」に寄付し、メイン購買層である女性の方たちを支援してまいります。



リニューアルの内容

- ・パッケージデザインをさらにフレッシュで優しいイメージに変更しました。
- ・カートンの強度を一層アップし、耐久性を向上させました。
- ・カートンにエンボス加工を付与し、握りやすく、滑りにくくしました。



おっぱ頭のクルリちゃんでお馴染みのテレビCM。10作目の「大人に変身編」ではアーティストの木村カエラさんがゲスト出演し、大好評でした。(2009年1月～6月放映)

地域交流 理科授業

当社が行っている地域交流のひとつに福島県いわき市の小学生を対象とした理科授業があります。「化学の楽しさを知ってもらおう」と1999年から始まった授業も今回で10回を数えました。2008年は11月27日から12月2日まで、小学校3校の6年生を対象に、いわき事業所や総合研究所の従業員が講師を務める授業が行われ、さまざまな実験に取り組みました。いろいろな色の発光スライム作製や、液体窒素で凍らせたバナナでくぎを打つ体験を通じ、子供たちに化学の楽しさを感じてもらいました。



理科授業の様子

会社の概要

会社の概要 (2009年3月31日現在)

商号 株式会社クレハ
 本店 東京都中央区日本橋浜町3-3-2
 設立 1944年6月21日
 資本金 12,460百万円
 グループ従業員数 3,972名(単独:1,250名)

事業所 (2009年3月31日現在)

支店 大阪支店
 営業所 名古屋営業所、福岡営業所、仙台営業所
 事業所 いわき事業所(福島県いわき市)
 研究所 総合研究所(福島県いわき市)
 生物学研究所(東京都新宿区)
 加工商品研究所(茨城県小美玉市)
 駐在事務所 上海駐在員事務所(中国上海市)

当社の概要は、Webサイトでもご覧いただけます。
<http://www.kureha.co.jp/>



当社Webサイトに「個人投資家のみなさまへ」を開設しております。身近にあるクレハ製品や、業績の概況についてご説明しておりますので、ぜひご覧ください。

「TOPページ」→「投資家情報」→「個人投資家のみなさまへ」
<http://www.kureha.co.jp/ir/personal/index.html> からご覧ください。

取締役・監査役・執行役員 (2009年6月25日現在)

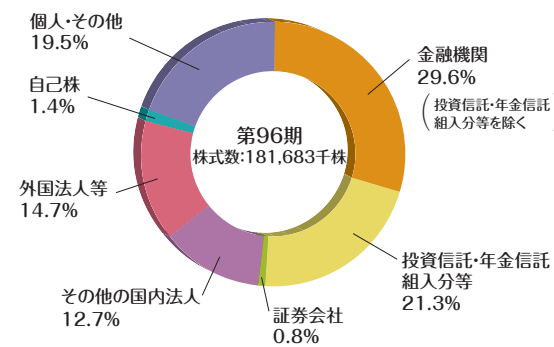
取締役会長(取締役会議長) 田中 宏
 代表取締役社長(経営会議議長) 岩崎 隆夫
 代表取締役専務執行役員 萩野 弘二
 代表取締役専務執行役員 鈴木 直哉
 取締役専務執行役員 宗像 敬吉
 取締役常務執行役員 小林 豊
 取締役常務執行役員 佐川 正
 取締役常務執行役員 須能 則和
 独立社外取締役 斉藤 邦彦
 独立社外取締役 高橋 武

常勤社外監査役(監査役会議長) 平野 恭昌
 常勤監査役 亀山 裕通
 常勤監査役 阿久根 豊
 社外監査役 木村 和俊

専務執行役員 藤井 雅彦
 専務執行役員 重田 昌友
 常務執行役員 宮守 保
 常務執行役員 紫垣 由城
 執行役員 蛭田 宣行
 執行役員 砂川 和彦
 執行役員 渋谷 幸広
 執行役員 福沢 直樹
 執行役員 国井 英一
 執行役員 上田 直毅

株式の概況

株式の所有者別構成比 (2009年3月31日現在)



株式の状況 (2009年3月31日現在)

発行可能株式総数 600,000,000株
 発行済株式の総数 181,683,909株
 株主数 16,402名

大株主の状況 (2009年3月31日現在)

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,016	8.3
明治安田生命保険相互会社	13,746	7.6
東京海上日動火災保険株式会社	13,368	7.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,723	5.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	7,531	4.2
株式会社みずほコーポレート銀行	6,958	3.8
第一三共株式会社	5,830	3.2
丸紅株式会社	4,462	2.4
ジュニパー(サウジアラビア)	4,132	2.3
株式会社損害保険ジャパン	3,359	1.8

注)出資比率は、自己株式(2,520千株)を控除して計算しています。

株価および出来高の推移

